

令和５年度小松市立安宅小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
道徳教育	〈道徳科の授業の充実と道徳性を高める教育活動の実践を行い、主体的につながり、高め合う子の育成に努める。〉 ・ねらいとする道徳的価値に迫る授業を構想するために「授業構想シート」を活用する。 ・「つながりマップ」や「あったか掲示板」を活用し、道徳の授業と教育活動をつなげ、児童の道徳性を高める。 ・各学級で「安宅授業言葉・Ｑワード」を活用した授業の充実を図り、児童自らが考えを深める力を高める。 ・要請訪問、校内研修を計画的に実施し、課題を共有し、共通実践・授業改善を行い、教員の指導力向上に努める。	・「授業構想シート」を活用することでねらいを明確にしたり、ねらいとする価値に迫れる授業設計ができるとの意見が多かった。今後は活用した授業構想シートを次年度も継続的に活用できるような仕組みを提案していきたい。 ・道徳アンケートから学校生活を振り返り、道徳で学習したことが生活の中に生かされていると思うの肯定的意見が低学年92％中学年87.4％高学年84％であった。「つながりマップ」を活用することで各行事と重点内容項目のつながりを教員が意識し、声かけしたり、指導したりすることにつながった。「あったか掲示板」は視覚的に児童が体験活動と道徳のつながりを意識することにつながった。 ・学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていると肯定的に答えた児童の割合が85.8％であった。さらに自ら考えを深める力を高めるために2学期初めに授業集会を行い、具体的に「安宅授業言葉・Ｑワード」を活用する場面を動画を見て、全校で共有していく。 ・要請訪問や主任指導主事を計画的に活用した研修を行った。また研修での学びを全職員で共通理解したり、通信を活用して共通実践したりしてきた。これからも指導力向上を図っていく	
特別支援教育	＜要支援児童への支援体制の充実を図り、児童の自己存在感を高める。＞ ・保護者や関係機関と連携し、児童の特性に応じて組織的な支援を行う。 ・配慮が必要な児童の実態把握に努め、実態に応じた具体的な支援・手立てを検討し実践するとともに定期的な検証と改善に取り組む。 ・スクールカウンセラー、特別支援教育支援員や学習支援員、心の相談員等の専門性を生かした支援体制を構築し、授業者や児童のニーズに応じ、効果的な支援を行う。	・1学期は9件の専門相談員による対象児童観察を行い、その後の懇談により、その子の特性に応じた支援策を考えることができた。 ・年度当初に配慮が必要な児童の実態について全体で情報共有した。5月には学年ごとに校内支援委員会を設けて、具体的な支援策について協議した。定期的に児童理解の会を開き、学校全体での情報共有に努めている。 ・担任の意見を聞きながら、支援員・心の相談員の配置を、学校全体の児童の様子に合わせて行った。 ・教職員アンケート「学校として要支援児童への対応は適切か」は肯定的意見が90％であった。	
生徒指導	〈自治的活動の充実を図り、児童の自己指導能力を高める。〉 ・運営委員会を中心に、各委員会においても学校目標、児童会目標の達成に向けた「つながり、高め合う」取り組みを計画的に実践する。 ・あったか集会を計画的に行い、6年児童や運営委員を中心に自分たちでよりよい学校を創ろうとする意識を高める。 ・学級力アンケートを定期的に実施し、結果をもとに各学級で成果と課題、今後の取組について話し合うことで、学級力の向上を図る。	・運営委員会を中心に計画した「あったか集会」では、学年の枠を越えて仲良くなるという目標達成を意識したエンカウンターを行った。高学年自ら他学年と関わり、自分たちでよりよい学校を作っていこうという意識を高めるきっかけをつくることができた。 ・学級力会議はどの学年も計画的に行えており、クラスの課題や目標を児童と共有できている。 ・自分には良い所があると思いますか「81.2％」で昨年同時期が「85.4％」と約4％下がっている。また、「児童があったか言葉を進んで使ったり、あったか行動を意識して行ったりすることができるよう働きかけている」が「88.2％」で昨年同時期が「100％」と約12％下がっている。あったかタイムやつながりマップを意識した声掛けなど継続的な取組みや、学校全体での認める声かけや目的意識をもたせた活動を行っていき、高めていきたい。	
体育・保健	〈自らの生活を振り返り、主体的に健康な生活を送ろうとする意欲を高める。〉 ・学級担任・養護教諭が連携し、望ましい生活習慣について指導するとともに、児童自身の生活を振り返る機会を設ける。 ・保健委員会を中心に毎月の保健目標に関する企画や啓発活動を実施し、健康生活への意欲を高める。 ・「体力アップ1校1プラン」で「スポチャレ 長なわ」や「鬼ごっこ大会」などに取り組み、持久力の向上を目指す。	・平日の就寝時間2 2時前と回答した児童が85.7％と高いが、保護者は69％と差が16.7％ある。この差の要因は不明だが、今後も児童保護者ともに睡眠時間の確保について意識が高まるような指導を行っていく。 ・夏休み前に養護教諭作成の資料を基に、生活習慣とメディアコントロールについて学級担任より指導を行った。夏休みは「安宅つ子生活カード」に取り組み、規則正しい生活習慣や家庭でのメディアルールの確立を目指す。 ・今年度はスポチャレ長なわに取り組むことを周知し、学級によっては取り組んでいるクラスもある。また、体力向上のため児童会から「ぞうきんレース」を開催し、多くの児童が参加することができた。	
食育	〈望ましい食生活を送ろうとする主体性と食品選択能力を高める。〉 ・健康課題（朝食欠食、肥満、偏食、Ca摂取）への意識を高め、家庭と連携して規則正しい生活習慣を身に付けられるように指導、啓発する。 ・給食を教材とした、給食時の食に関する指導を学級担任と連携して行う。毎月の給食目標について、評価を行う。 ・児童委員会を活用し、児童の食に関する意識を高める。 ・実施した取組について指導の効果を評価する。（クイズ、アンケート等）	・朝食摂取状況CD評価は児童5.8％、保護者4.6％と高い。PTAと連携した取組を実施したり、夏休み中の生活チェックカードで朝食や間食の項目を取り入れたりして、より望ましい生活習慣への意識を高めたい。今後朝食内容についての児童アンケートを実施し、結果を学校保健委員会へつづなげ、朝食内容の充実を呼びかけたい。 ・給食を残さず食べる児童（AB）は85.2％と高い。引き続き給食時の巡回や一斉指導、学級担任との連携を行い関心度を高めたい。 ・4.5.6年生で実施したCa自己チェック表の結果、習慣的に十分摂取できている（700mg/日）児童の割合は37.0％と低い。指導を計画的に実施していく。 ・給食目標は各月全体で8割達成できているが、クラス差があるので児童委員会を活用していきたい。	
情報教育	〈自己の課題解決に向けて、情報を効果的に活用し実践する力を高める。〉 ・GIGAスクール構想年間計画に基づき、計画的に研修を実施する。 ・GIGA推進校の実践例を参考に授業実践を行い、報告・交流の機会を計画的に設定し、ICT機器の各教科等のねらいに応じた効果的な活用法、個に応じた学習用端末の活用の在り方等を追究する。 ・Qubenaを積極的に活用し、学習の基礎基本の定着を図る。	・GIGAスクール構想年間計画を策定し、全教職員に周知することができている。また、週に一度タブレットを使用する日を決め学習ドリルを行っている。 ・夏休みに児童が学習用端末を持ち帰り、ドリルプラネットやQubenanaなどの課題に取り組んでいる。また、2学期以降も学習用端末を家庭に持ち帰る予定なので、学校だけでなく、家庭でも身近な教材として使用してもらいたい。 ・「コンピュータなどのICT機器を他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために使用している」の項目では肯定的な回答が児童は89.9％、教職員は93.8％であり、ともに9割と高い結果となった。今後は、Skymenu Classだけでなく、Teamsも効果的に活用して、各教科等での効果的な活用や情報共有をしていきたい。	
読書教育	＜児童の読書の量と質を高める。＞ ・各学年に応じた「おすすめ図書」を設定し、本の紹介を通して児童の読む意欲を高める。 ・週末やこまつ市民読書の日等に合わせ貸出冊数を増やしたり、各学期1回「ファミリー読書」期間を設けたりして、家族ぐるみの読書を推進する。 ・児童図書委員会や図書ボランティア、教職員の読み聞かせで、いろいろな分野の本に親しめる機会を増やす。	・本の紹介をすると児童の読む意欲も増し、朝読書などで「おすすめ図書」を読む姿が多く見られた。また、昨年度より若干貸出冊数も増えている。アンケートの「読書を楽しんでいるか」の結果を見ても、92.7％と肯定的に答えた児童が多かったことから伺える。ただ、保護者アンケートでは58％と低い数値だった。保護者が読んでほしい本と、児童が読みたい本の意識の違いが大きいのかもしれない。読書の幅を広げるように取り組んでいきたい。 ・児童図書委員会では、読書量を増やしたり読書の幅を広げたりする企画を行った。また、図書ボランティアによる「お話の会」では、いつもとは異なる雰囲気の中で本に親しむことができた。今後も、活動を通して、本に親しんでいきたい。	
家庭・地域社会との連携	〈学校・保護者・地域との効果的な連携を図る〉 ・学校行事や様々な教育活動について、各種たよりの定期的な配付やコドモン、ホームページ等を活用した発信を通して、保護者と地域に適切な情報を迅速に公開・提供する。 ・児童の健康、安全に関する情報は、状況に応じた連絡手段を適宜選び、保護者と双方向のやり取りができるようにする。 ・PTAと食育に関する意識を高める啓発に取り組むと共に、児童の登下校の安全の確保に関する情報共有に努める。	・保護者アンケート「学校便りやホームページで学校の様子がよくわかりますか」の結果で、肯定的な意見を昨年度末と比較すると、87.8％→83.3％と約5ポイント減であった。保護者には、コドモンや紙媒体を使って定期的に各種たよりを配付したり、児童の健康・安全に関する情報は、コドモンや電話連絡等で迅速に伝えていますが、全保護者に情報が行き渡っていない状況であると考えられる。 ・保護者アンケート「お子さんは毎朝、朝食を食べていますか」の結果は、昨年度末と同様に95％とほとんどの児童が朝食を食べていることが分かる。日頃の教育活動における給食指導やPTAとの取組を継続していることが成果として表れていると考えられる。 ・わが町防犯隊情報交換会において、児童の登下校に関する安全確保についての共有を図ることができた。	

学校関係者評価	
---------	--